

沖縄の持つ風景のポテンシャルとブランド力

他には無い沖縄独自の植物がオリジナルのブランドになる

カゼモニワ 代表 多田弘（植物空間演出家、ガーデンデザイン、ランドスケープ）

南城市 世界遺産斎場御嶽周辺エリア景観形成基本計画検討委員会委員
特定非営利活動法人 首里まちづくり研究会 まちづくり副部長
デザイナーズ集団 瀬戸内工芸ズ。部員
庭づくり集団 庭遍路主催
沖縄にて様々なプロジェクトに関わり活動中

- 1995年 沖縄県立芸術大学大学院環境造形専攻彫刻専修修了。
2000年 岡本太郎現代芸術大賞展入選
2009年 庭デザイン「カゼモニワ」設立。
2011年 神戸ビエンナーレ（審査員特別賞）
2012年 こうべアート街道（植物を使ったインスタレーション）
2016年 瀬戸内国際芸術祭（空間演出） 六本木アートナイト（空間演出） 六本木ヒルズ（ディスプレイ）
2017年 「沖縄風景プロジェクト」発足 カウントダウン方式の100年計画
（風景ブランドづくり。沖縄全土が在来種溢れる美しい島になる）
沖縄県立博物館・美術館10周年記念展出品
やんばるアートフェスティバル（40年後に完成する「アグの森」制作） 名護市
斎場御嶽（世界遺産）周辺の森再生植栽デザイン
南城市観光コア施設整備基本計画専門委員会委員
沖縄県立芸術大学非常勤講師
2018年 平成30年度地域振興助成事業（琉球大学との共同研究）「花いっぱい運動、地域美化に関する持続可能なモデル研究」
東南植物楽園にて沖縄の在来種を使った盆栽イベントを行う
「沖縄タイムス創立70記念展」のディスプレイを沖縄の在来種で制作
「やんばるアートフェスティバル」沖縄の在来種のみで制作
2019年 瀬戸内国際芸術祭（空間演出）
ブルーフェス（竹を使ったオブジェ制作） 徳島県

沖縄の在来樹木を増やす活動として「クラウドファンディング」を2回行う
100年かけて沖縄を在来種があふれる風景に「沖縄風景プロジェクト」進行中

沖縄在来の樹

沖縄の大地を作った樹々たち

赤線	その土地にしかない固有種
線なし	沖縄県以外の日本の地域にも自生する共通の樹種
<u>下線</u>	<u>日本本土には無く、海外には存在する樹種</u>

◆サルトリイバラ科
カラスキバンサンキライ
(つる性木本)
ハマサルトリイバラ
(つる性木本)
オキナワサルトリイバラ
(つる性木本)
サツマサンキライ
(つる性木本)
ササバサンキライ
◆ヤシ科
ビロウ
ヤエヤマヤシ
クロツグ
ニッパヤシ
◆アケビ科
ムベ
(つる性木本)
◆ツヅラフジ科
コウシュウウヤク
(つる性木本)
アオツヅラフジ
(つる性木本)
ホウザンツヅラフジ
(つる性木本)
ツヅラフジ
(つる性木本)
ハスノハカズラ
(つる性木本)
◆キンボウゲ科
ピロードボタンズル
(つる性木本)

◆キンボウゲ科
リュウキュウボタンズル
(つる性木本)
コバノボタンズル
(つる性木本)
オキナワセンニンソウ
(つる性木本)
ヤンバルセンニンソウ
(つる性木本)
ヤエヤマセンニンソウ
(つる性木本)
センニンソウ
(つる性木本)
◆アワブキ科
ヤンバルアワブキ
ナンバンアワブキ
ヤマビワ
◆ヤマモガシ科
ヤマモガシ
◆ヤマグルマ科
ヤマグルマ
◆ツゲ科
タイワンアサマツゲ
オキナワツゲ
◆マンサク科
イスノキ
ヒイラギズイナ
◆ユズリハ科
ヒメユズリハ
ユズリハ

◆ヘゴ科
ヒカゲヘゴ
ヘゴ
クロヘゴ
◆ソテツ科
ソテツ
◆マツ科
リュウキュウマツ
(**南西諸島固有種**)
◆マキ科
イスマキ
◆ヒノキ科
オキナワハイネズ
◆マツバサ科
シキミ
ヤエヤマシキミ
◆センリョウ科
センリョウ
◆モクレン科
オガタマノキ
◆バンレイシ科
クロボウモドキ (日本で唯一のバンレイシ科、西表、波照間)
ハスノハギリ科
ハスノハギリ
テングノハナ (現存する自生地は石垣島の一箇所のみ)
◆クスノキ科
ヤブニッケイ
シバニッケイ
マルバニッケイ
ニッケイ
シロダモ

◆クスノキ科
キンシヨクダモ
イスガシ
アカハダクスノキ
オキナワコウバシ (**琉球固有変種**)
バリバリノキ
ホソバタブノキ
タブノキ
カゴノキ
アオモジ
ハマビワ
スナズル
(つる性草本)
ケスナズル (伊平屋、伊是名、沖縄本島)
(つる性草本)
イトスナズル (伊是名、久米)
(つる性草本)
◆コシヨウ科
フウトウカズラ (つる性木本)
◆サトイモ科
ハブカズラ
(つる性木本)
ヒメハブカズラ
(つる性木本)
サキシマハブカズラ
(つる性木本)
◆タコノキ科
アダン
タコノキ
ヒメツルアダン (西表島)
ツルアダン
(西表、与那国、小笠原)

◆ブドウ科

オモロカズラ

(つる性木本)

アマミナツツダ

(つる性木本)

テリハノブドウ

(つる性木本)

◆マメ科

ハカマカズラ

タマツナギ (宮古、石垣、小浜、西表)

◇デイゴ◇ (外来種 県花)

ナハハギ

ミソナオシ

エノキマメ

クロヨナ

タシロマメ

ヤエヤマシタン

リュウキュウコマツナギ

フジボグサ

オオバフジボグサ

ホソバフジボグサ

ハマセンナ

タイワンミヤマトベラ

シマエンジュ

イソフジ

アカハダノキ (石垣、西表)

ヤエヤマネムノキ (琉球固有種)

ヒロハネムノキ

ナンテンカズラ

(つる性木本)

ジャケツイバラ

(つる性木本)

◆マメ科

シロツブ

(つる性木本)

ハスノミカズラ

(つる性木本)

ヒメダモ

(つる性木本)

ヒルギカズラ (石垣、西表)

(つる性木本)

シイノキカズラ

(つる性木本)

タイワンクス

(つる性木本)

クス

(つる性木本)

イルカンダ

(つる性木本)

カショウクスマメ (石垣、小浜、西表、

与那国) (つる性木本)

ワニグチダモ

(つる性木本)

ナガミハナマタマメ

ハマナタマメ

(つる性木本)

タカナタマメ

(つる性木本)

ハナエボシグサ (ミツバノコマツナギ)

(つる性木本) 海岸の砂地、岩場

ハギカズラ

(つる性木本) 海岸岩場

シロバナミヤコグサ

(つる性木本) 海岸の砂地

◆バラ科

リュウキュウカンヒザクラ

バクチノキ

リンボク

シマカナメモチ

オオカナメモチ

シャリンバイ

テンノウメ (海岸岩場石灰岩上)

テリハノイバラ

ヤエヤマノイバラ (宮古、伊良部、

石垣、黒、西表)

ホウロクイチゴ

クワノハイチゴ (半つる性低木)

(琉球固有種)

ホザキイチゴ (沖縄島)

(半つる性低木)

リュウキュウイチゴ

リュウキュウバライチゴ

アリスンバライチゴ (与那国)

ナワシロイチゴ

◆クロウメモドキ科

リュウキュウクロウメモドキ

ヒメクロウメモドキ

ヤエヤマハマナツメ

(沖永、宮古列島、石垣、竹富、小浜、

黒、西表、小笠原)

ハマナツメ

ヤエヤマネコノチチ

クロイゲ

ナガミクマヤナギ

ヒメクマヤナギ

◆アサ科

クワノハエノキ

サキシマエノキ (宮古列島)

ムクノキ

ウラジロエノキ

キリエノキ

◆クワ科

ガジュマル

アコウ

オオバアコウ (石垣、西表、波照間、

与那国)

ホソバムクイヌビワ

ムクイヌビワ

ハマイヌビワ

オオバイヌビワ

アカメイヌビワ

ギランイヌビワ (宮古、石垣、西表、

与那国)

イヌビワ (落葉樹)

オオイタビ

イタビカズラ

(つる性木本、気根)

ヒメイタビ

(つる性木本、気根)

カカツガユ

(半つる性低木)

シマグワ

カジノキ

◆ブナ科

オキナワジイ

マテバシイ

ウラジロガシ

ウバメガシ

◆ヤマモモ科
ヤマモモ
◆ニシキギ科
コクテンギ
リュウキュウマユミ
ヤンバルマユミ
ヒゼンマユミ
アバタマユミ
マサキ
リュウキュウツルマサキ
(つる性木本、気根)
ハリツルマサキ
(半つる性低木)
モクレイシ
テリハツルウメモドキ
リュウキュウツルウメモドキ
◆ホルトノキ科
ホルトノキ
コバンモチ
ナガバコバンモチ (石垣、西表)
ヒルギ科
ヤエヤマヒルギ
オヒルギ
メヒルギ
◆トウダイクサ科
シマシラキ
シラキ
エノキフジ
オオバギ
アカメガシワ
ウラジロアカメガシワ (石垣、西表)
クスノハガシワ

◆トウダイクサ科
ヤンバルアカメガシワ
アミガサギリ
グミモドキ
◆コミカンソウ科
アカギ
アマミヒトツバハギ
マルヤマカンコノキ (先島諸島)
アカハダカンコノキ
カキバカンコノキ
ケカンコノキ
キールンカンコノキ
カンコノキ
ヒラミカンコノキ
ウラジロカンコノキ
オオシマコバンノキ (先島諸島)
ドナンコバンノキ (与那国島)
ハナコミカンボク (沖縄島固有種)
ヤマヒハツ
コウトウヤマヒハツ
◆キントラオノ科
コウシュンカズラ
ササキカズラ
(つる性木本)
◆ツゲモドキキ科
ツゲモドキ (ナエシロチョウの食草)
◆ヤナギ科
トゲイヌツゲ
イイギリ
◆テリハボク科
テリハボク
◆フクギ科
フクギ (在来種であるとの説もある)

◆シクンシ科
モモタマナ (紅葉する)
ヒルギモドキ
◆ミソハギ科
ハマザクロ (石垣、小浜、西表)
ミズガンビ
サルスベリ
シマサルスベリ
◆フトモモ科
テンニンカ
アデク
◆ノボタン科
ノボタン
コバノミヤマノボタン (沖縄島固有種)
ハシカンボク
ヤエヤマノボタン (石垣、西表)
◆ミツバウツギ科
ショウベンノキ
ゴンズイ
◆キブシ科
ナンバンキブシ
◆ウルシ科
ハゼノキ
ヌルデ
◆ムクロジ科
ムクロジ
クスノハカエデ
アカギモドキ
ハウチワノキ
◆クサトベラ科
クサトベラ
◆キク科
モクビヤッコウ

◆ミカン科
アワダン
サルカケミカン
ハナシンボウギ
ツルザンショウ
アマミザンショウ
シマイヌザンショウ
テリバザンショウ (久米、石垣、小浜、
西表、与那国) (つる性木本)
ヒレザンショウ
(つる性木本)
カラスザンショウ
ハマセンダン
ゲッキツ
シークアサー
リュウキュウミヤマシキミ
◆ニガキ科
ニガキ
◆センダン科
センダン
◆アオイ科
アオギリ
サキシマスオウノキ
サキシマハマボウ
ハマボウ
オオハマボウ
サキシマフヨウ
ブッソウゲ (ハイビスカス)
(外来種とも言われている)
ハテルマカズラ
(匍匐性低木)
ヒシバウオトリギ (石垣島)
(匍匐性低木)

◆アオイ科
ヤンバルゴマ
アオガンビ
◆ジンチョウゲ科
アオガンビ (和紙の材料)
コショウノキ
◆フウチョウボク科
ギョボク
◆ビャクダン科
ヒノキバヤドリギ
オオバヤドリギ
◆ボロボロノキ科
ボロボロノキ
◆ヒユ科
インドヒモカズラ (宮古列島、石垣、
西表、波照間)
◆イソマツ科
イソマツ
ウコンイソマツ
◆オシロイバナ科
トゲカズラ (つる性木本)
オオクサボク
◆ミズキ科
シマウリノキ
ヤエヤマヤマボウシ (石垣、西表)
◆アジサイ科
リュウキュウコンテリギ (沖縄島固有)
ヤエヤマコンテリギ (石垣、西表)
オキナワヒメウツギ (沖縄島固有種)
ヤエヤマヒメウツギ (西表)
(西表島固有種)
シマユキカズラ

◆サガリバナ科
サガリバナ
ゴバンノアシ
(石垣、黒、新城、西表、波照間)
◆サカキ (モッコク) 科
ヒサカキ
ハマヒサカキ
ヒメヒサカキ
サキシマヒサカキ (石垣、西表)
(八重山固有種)
クニガミヒサカキ (沖縄島)
(沖縄島北部固有種)
ヤエヤマヒサカキ (石垣、西表)
(八重山地方固有種)
アマミヒサカキ (琉球固有種)
リュウキュウナガエサカキ (沖縄島)
(沖縄島固有)
カナガエサカキ (石垣、西表)
サカキ
モッコク
◆アカテツ科
アカテツ
◆カキノキ科
トキワガキ
リュウキュウコクタン
リュウキュウガキ
リュウキュウヤマメガキ
オールドガキ (石垣、西表)
ヤワラケガキ (西表、与那国)
◆サクラソウ科
マンリョウ
モクタチバナ
シシアクチ

◆サクラソウ科
リュウキュウツルコウジ
(匍匐性低木)
ヤブコウジ
ツルマンリョウ
(匍匐性低木)
タイミンタチバナ
シマイズセンリョウ
◆ツバキ科
イジュ
ヤブツバキ
サザンカ
ヒメサザンカ (琉球固有種)
ヒサカキサザンカ (琉球固有種)
◆ハイノキ科
アマシバ
リュウキュウハイノキ
(沖縄島固有種)
ミヤマシロバイ
ナカハラクロキ (琉球固有種)
クロバイ
ナガバクロバイ (石垣、西表固有変種)
アオバナハイノキ (沖永、沖縄島)
(琉球固有種)
イリオモテハイノキ
(西表島固有変種)
ヤエヤマクロバイ (石垣、西表)
アオバノキ
ヤンバルミズズバイ (沖縄島)
ミミズバイ
コニシハイノキ (西表)

◆エゴノキ科
エゴノキ
シマサルナシ
(つる性木本)
タカサゴシラタマ (石垣、西表)
◆ツツジ科
ケラマツツジ
タイワンヤマツツジ
サキシマツツジ (久米、石垣、西表)
サクラツツジ
マルバサツキ
セイシカ (石垣、西表)
ギーマ
シャシャンボ
リュウキュウアセビ
(沖縄島北部固有種)
◆クロタキカズラ科
クサミズキ (石垣、西表)
◆アオキ科
ナンゴクアオキ
◆アカネ科
クチナシ
アカミズキ
ギョクシンカ
シマミサオノキ
シロミミズ
ヒジハリノキ (石垣島)
ヘツカニガキ
ハテルマギリ (先島諸島、与那国では
見つかっていない)
ボチョウジ
ナガミボチョウジ

◆アカネ科

シラタマカズラ
(つる性木本、気根)

ヒョウタンカズラ
(つる性木本)

コンロンカ
(つる性木本)

ハナガサノキ
(つる性木本)

ヤエヤマアオキ
タイワンルリミノキ

オオバルリミノキ
マルバルリミノキ

リュウキュウルリミノキ
ケシンテンルリミノキ

ニコゲルリミノキ
トガリバルリミノキ

アリオドシ
オオアリオドシ

ヒメアリオドシ
リュウキュウアリオドシ

(琉球固有種)
ヤンバルアリオドシ

マチン科
ホウライカズラ

(つる性木本)
リュウキュウチトセカズラ
(つる性木本)

◆キョウチクトウ科
サカキカズラ
(つる性木本)

シタキソウ

◆キョウチクトウ科

キジョラン
(つる性木本)

ソメモノカズラ (藍色の染料)
(つる性木本、アサギマダラの食草)

ゴムカズラ
(つる性木本)

ホウライアオカズラ (石垣、与那国)
(つる性木本)
(ギムネマ茶の原料として栽培される)

サクララン
(つる性木本)

ホウライカガミ (つる性木本)
(オオゴマダラの食草)

オキナワテイカズラ (つる性木本)
(九州本島最南端～先島諸島、小笠原)

ケテイカズラ
(つる性木本)

ミフクラギ
シマソケイ (宮古、伊良部、石垣、西表)

(先島諸島固有種)
◆ムラサキ科

チシャノキ
マルバチシャノキ

リュウキュウチシャノキ (宮古、石垣、小
浜、西表、鳩間、波照間)

フクマンギ
カキバチシャノキ

トゲミノイヌチシャ (石垣、西表、魚釣)
モンパノキ

◆ヒルガオ科
ゲンバイヒルガオ (つる性草本)

◆ヒルガオ科

(つる性草本)
ノアサガオ

(つる性草本)
ホルトカズラ

(つる性木本)
◆ナス科

イラブナスビ (宮古、伊良部、来間)
(匍匐性低木)

ヤンバルナスビ
◆モクセイ科

オキナワソケイ
イリオモテヒイラギ (西表)

リュウキュウモクセイ
シマモクセイ

(伊豆諸島、福井、山口、四国、九州～トカ
ラ、奄美、石垣、西表、与那国、小笠原)
(◇沖縄諸島には分布しない)

ネズミモチ
オキナワイボタ

トゲイボタ (渡名喜、伊良部、与那国)
(琉球固有種)

シマタゴ
シマトネリコ

ミズビワソウ (西表)
(西表島固有種)

イワタバコ科
ナガミカズラ (西表)

(つる性木本)
ヤマビワソウ

ゴマノハクサ科
ハマジンチョウ

シソ科

オオムラサキシキブ (半落葉低木)
オキナワヤブムラサキ (沖縄島)

(沖縄島固有種)
イリオモテムラサキ (石垣、西表、与
那国) (八重山列島固有種)

ホウライムラサキ (沖縄島)
ホソバムラサキ (西表)

イボタクサギ (半つる性低木)
クサギ

タイワンウオクサギ
ルソンハマクサギ (石垣、西表)

ハマクサギ
ハマゴウ (落葉匍匐性低木)

ヤエヤマハマゴウ (沖縄島?石垣、西
表、内離)

オオニンジンボク (石垣、西表)
キツネノマゴ科

ヒルギダマシ
アリサンアイ

(コノハチョウの食草)
ハナイカダ科

リュウキュウハナイカダ
(奄美、徳之、伊平屋、沖縄島)

モチノキ科
オオイシバモチ

リュウキュウモチ
ナガバイヌツゲ

モチノキ
ツゲモチ

クロガネモチ

◆レンブクソウ科

ハクサンボク

ゴモジュ

サンゴジュ

ニワトコ

◆スイカズラ科

ハマニンドウ

(つる性木本)

ヒメスイカズラ

(つる性木本)

タイワンツクバネウツギ (奄美、石垣)

(園芸用に採取されて激減)

◆トベラ科

オキナワトベラ

トベラ

◆ウコギ科

リュウキュウハリギリ

カクレミノ

リュウキュウヤツデ (琉球固有変種)

カミヤツデ

キズタ

(つる性木本)

ミツバウコギ (宮古島)

フカノキ

リュウキュウタラノキ

◆ウマノスズクサ科

リュウキュウウマノスズクサ

(つる性木本)

アリマウマノスズクサ

(つる性木本)

◆グミ科

ツルグミ

(つる性木本)

リュウキュウツルグミ

(つる性木本)

オオバツルグミ

アキグミ

◆イラクサ科

ハドノキ

ヌノマオ

ヤナギイチゴ

ヤナギバモウマオ

東南植物楽園でのイベント

「イベントのテーマ」

- 何万年もかけて沖縄の大地を作り上げた樹々のことを知ってもらう
- 沖縄の在来種の美しさを知ってもらう
- 沖縄の樹々の面白さを知ってもらう



南島歌人・演出家 平田大一

世界で活躍する二人がコラボレーション

沖縄の音楽
×
ウチナー樹木で作る盆栽



盆栽師 平尾成志





在来種のパネル展示・有機野菜の食べ物と自然素材のアロマを販売



沖縄在来樹木を使ったワークショップ



沖縄の風景についてのディスカッション

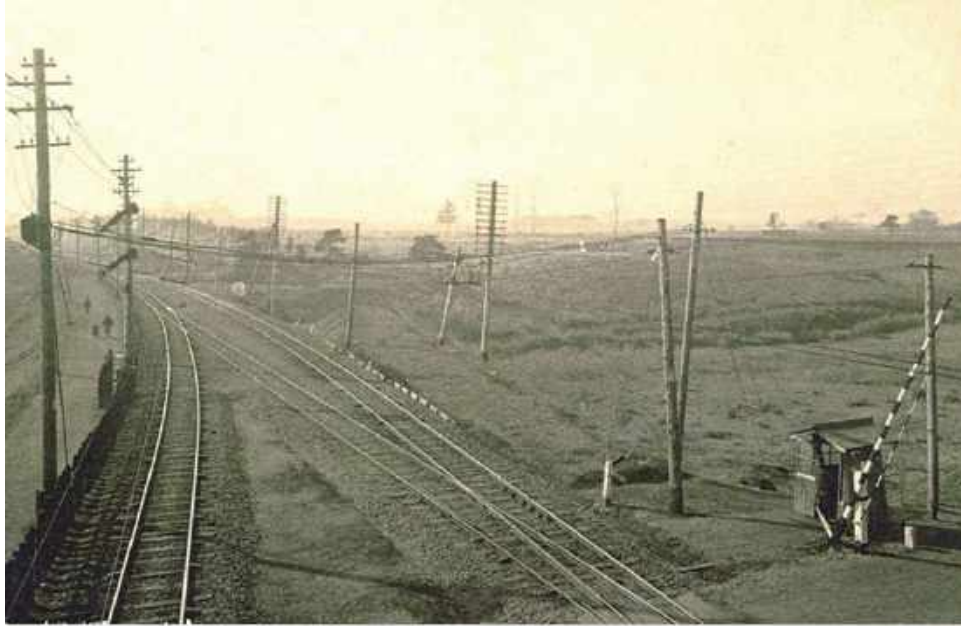




百年前、人の手で作られた 明治神宮の森

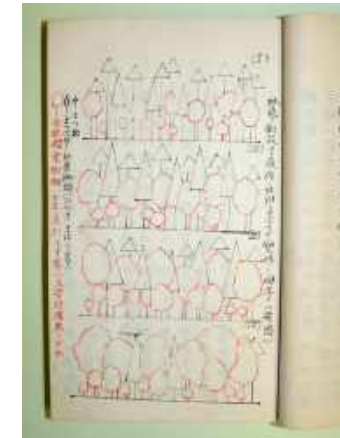
「神社の森は永遠に続くものでなければなら
ない。それには自然林に近い状態をつくり上
げることだ」――これが基本計画の骨子と
なった。

計画の中心を担った本多、本郷、上原の3
人が主木として選んだのは、カシ、シイ、ク
スノキなどの常緑広葉樹だった。もともとこ
の地方に存在していたのが常緑広葉樹であり、
各種の広葉樹木の混合林を再現することがで
きれば、人手を加えなくても天然更新する
「**永遠の森**」をつくることができると考えた。



明治神宮の森

樹に優しく人にも優しい森。



大正初期の日本人が、当時の英知を結集してつくり上げようとした「永遠の森」。
そこにあるのは、森づくりへの明確なビジョンと、100年先を見据えたランドデザインがあった。

浦添の街も百年先を見据え、子孫が喜ぶ空間を目指したい。

斎場御嶽を森に返す

明治神宮の森を参考に100年後を見据えた植栽デザイン。

沖縄の樹と内地の樹の性質は違う。同じように考えては作れない。
沖縄の風土に合わせて考えなくてはならない。



斎場御嶽の元駐車場



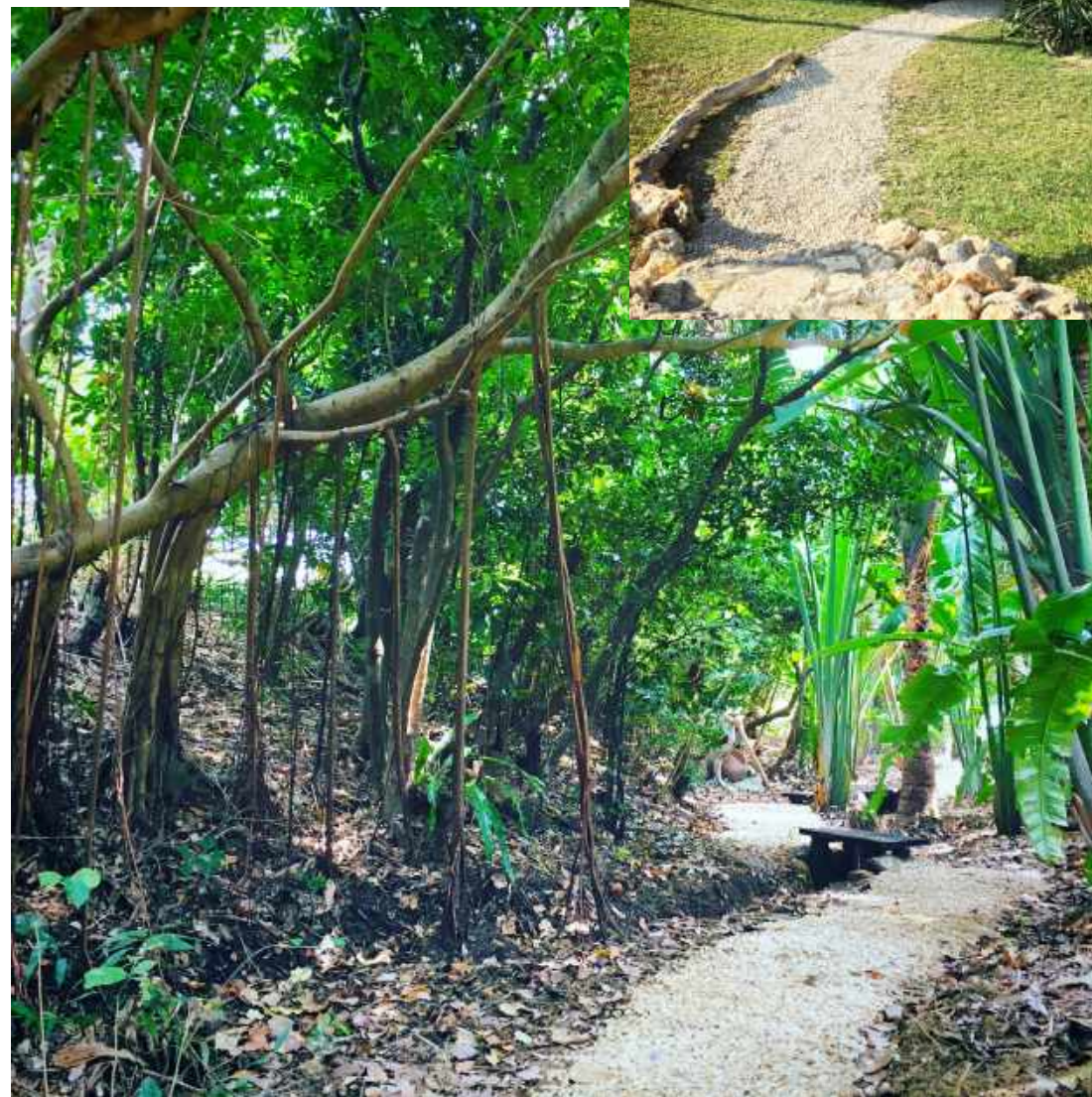
樹木が成長するにしたがい沖縄の在来樹木がメインになるように構成された植栽



人の手が入り、荒れてしまった森を再生させる

樹木を間引き、自然の法則に従って

光と風が入る空間に変える

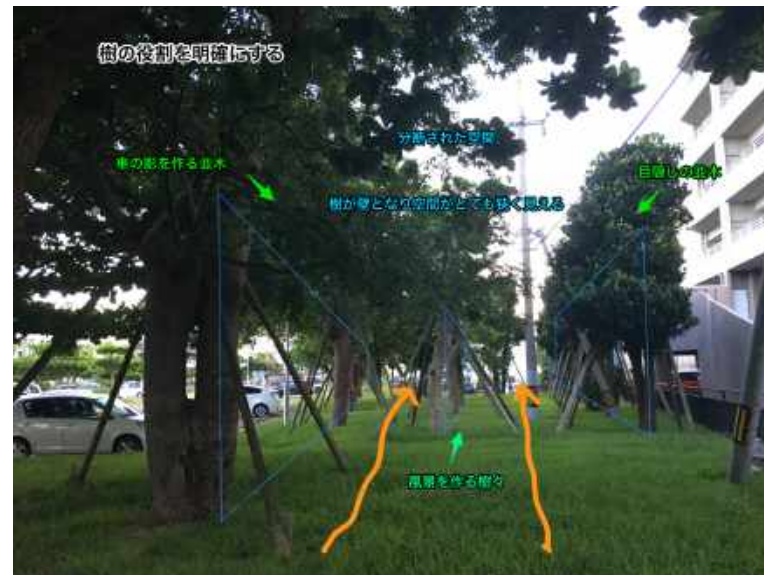


「人と自然、植物との共生」は人々の関心が高く課題でもある。



奥武山公園の植栽の問題点。なぜ心地よい空間になっていないのか？

自然の理にかなった植栽をする必要がある



外来の樹々を排除するという考えではなく、
ウチナーの樹々を生かした空間を提案いたします。

それは沖縄独特の風景を生み、他の土地には無い

世界が憧れる

「沖縄の風景ブランド」となるでしょう。

ご静聴ありがとうございました。